

どのような最期を迎えたいか

読者の皆様は、ご自分がどのように最期を迎えるのだろうか、想像したことはありますか？

陽の当たる縁側で居眠りしながら自然に息を引き取るとか、病院で心拍数を測定されながらベッドの周りには危篤を聞いて駆けつけた子供たちに手を握られながら死を迎えるとか。もしくは、脳梗塞の後遺症で意識不明の状態が長くつづいている中で人工的な呼吸と栄養を摂取しながら次第に内臓が弱って行って死を迎えるとか、交通事故である日突然死に至ってしまうとか。

いろいろな死の場面が想定される中で、即死以外のどんな死にもきっと、ある時点で「このまま何もしなければ、回復の見込みはありません」という医師の宣告があるのだと思います。

そのとき、残念ながら皆様は、「そうですか、では自然に任せてください」とか「いや、まだ生きたいので出来るだけのことをしてください」とかいうその時点でのご自身の希望を、医師に伝えることが出来ない状態である可能性が高いのです。

その場面を今、頭に思い描いてみてください。

読者の皆様が、「回復の見込みがない」という医師からの宣告があったとき、誰にその後のことを委ねたいと考えますか？病院のベッドで意識を失っている皆様の横で、皆様の今後の生死に関わる治療について、医師と話をしている姿は、一体誰を思い描いているでしょうか？

頭の中の想像の場面に、はっきりと登場した人がいた場合は、ぜひとも皆様の人生の最終段階の希望や考え方を、その人に常日頃から伝えておいてください。ただし、配偶者や兄弟姉妹などの同世代の人は、その人の方が先に人生の最終段階を迎えるケースも多く想定されるので、第2希望としてひと世代下の人も考えておくべきです。

とてもじゃないけど、自分の人生の幕引きを決めてもらうようなことを頼める人はいないとか、普段はあまり関わりのない甥姪にそんな重大なことを任せるのは荷が重いだろうから遠慮してしまうとか、そういう場合には、皆様の人生の最終段階についての考え方をしっかりと聞きした上で、株式会社 OAG ライフサポートが皆様の元気な時のご意思を、しっかりと担当医に伝える役割を果たすこともできます。

と一緒に、人生の最終段階を迎える心構えを考えてみませんか？

